

# TDA創立10周年記念出版にあたって

日本テキスタイルデザイン協会 初代理事長  
上野 昌男

日本テキスタイルで協会が創立10周年を迎えられた事に対し、心よりお喜びとお祝いを申し上げます。

思い出せば、日本経済のデフレが進む厳しい状況の中、あの忌まわしい阪神大震災（1995・1・19）の丁度1週間後に東京幕張のニューオータニホテルで協会設立総会がおこなわれました。

当時、通産省生活産業局、繊維製品課、山本庸幸氏ほか通産省の要人5名が出席され、テキスタイルビジネスに係わる多くの人達の懸案であった全国的な組織として当協会が発足しました。

「繊維」が果たす生活上の役割は、ファッション衣料はもとより、寝装、インテリアファブリックは勿論のこと、航空機、自動車等の乗り物から、建築、精密機械、医療、農林、通信等、様々な機能や目的を伴って広い分野に及んでおります。

私たちの生活にたいして重要な、テキスタイルデザインに係わる人々は、単なるデザイナーのみならず、テキスタイルデザインを業務とするデザイン事務所の経営者や、プランナー、企業に属するマーチャンダイザー、ファブリケーター、或いはデザインマネージャーのほか、それらと関係の教育者、及び評論家、加うるにコンピューター関連のアーティスト、繊維技術者にまでおよびます。当協会はこのような多種多様な人達の集まりであります。

私達、テキスタイルに係わる人達は、かつて残念ながら個人或いは個々の企業等による独自の動きでしか活動できませんでした。

当協会を設立する事によって、個々の活動ではなし得なかった、テキスタイルデザインの活動領域を広めるとともに、研究・活動の発表、人材育成、国際交流の場の提供や、著作権ほか権利の確保などテキスタイルデザイナーの地位向上を目指し、ひいては我が国「繊維産業の活性化」と「生活文化」に貢献しなければなりません。

この様に高邁な理想、理念に基づいて協会の活動を盛り上げる事こそ、設立当初の目標に添えるものと確信いたします。